

環境考古学を基軸とした人類学的「環太平洋文明学」の構築

立命館大学提供
作成日 2016年3月15日
更新日

	研究者氏名 わたなべ こうぞう 渡辺 公三	所属機関 立命館大学 先端総合学術研究科	関連キーワード(複数可) 文化人類学、民俗学、生態、環境、年稿、 環太平洋文明、気候変動
	主な研究テーマ ・国際秩序の形成と国民文化の変容 ・西欧市民社会の形成と人類学的思考の変容 ・アフリカ王制社会の比較研究	主な採択課題 ・基盤研究(A)平成25～28年度(配分総額: 44,720千円) 課題名「環境考古学を基軸とした人類学的「環太平洋文明学」の構築」 ・基盤研究(C)平成22～24年度(配分総額: 2,990千円) 課題名「マルセルモース人類学の現代的再評価」	

① 科研費による研究成果

1. 研究目的:

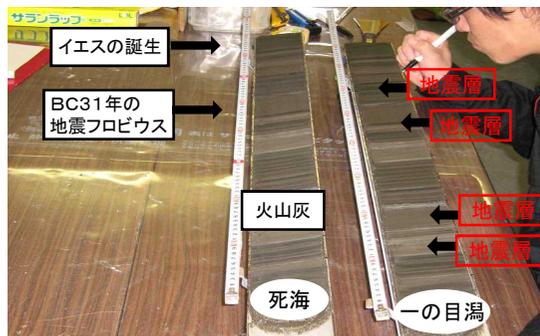
「年縞」の研究を軸に様々な分野から自然環境の変化と文明興亡の足跡をたどり、自然と人間のあり方を根本から問い直す。

2. 新たな「年縞」の発見:

環太平洋東部文明圏・南米コロンビアのムイスカ文明の興亡の調査のため、コロンビア・グアタビータ湖において予備調査の上、「年縞」を発見し、現在分析を進めている。来年度コロンビアで分析速報を発表し本格的な調査をおこなうことが決定した。

3. 地震データベースの作成:

日本列島周辺における1923年～2014年までのM1以上の地震について汎用性の高いデータベースを作成(高橋学, 2014年7月)、また、成果の一部や分析結果は、TVなどメディア等を通じ、広く一般に情報発信された。



死海の年縞(左)と秋田県一の目濁の年縞(右)

② 当初予想していなかった意外な展開

1. 研究協定の締結:

海外では、コロンビア環境省とロスアンデス大学、国内では静岡県ふじのくに地球環境史ミュージアムと研究協定を締結し、拠点形成に向けた取り組みをおこなうことになった。

2. 各地でのシンポジウム開催:

当研究では、2013年度に北海道函館市、2014年度は福岡県宗像市、2015年度は佐賀県佐賀市で、一般市民も参加できるシンポジウムを開催し、地域への研究成果の還元をおこなった。



福井県水月湖でのボーリング調査

③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

・採掘された年縞の分析を行い、気候変動、森林変遷や人的環境破壊の実態を年代別に特定し、それらが過去の文明にどんな影響を与えてきたかを明らかにする。

・文明の興亡、大都市の物質循環などの過程を解明、文明論を構築し、将来の環境や災害対策へ提言をおこなう。